

Fri

Thu

Wed

Tue

Mon

鋼管・建材・線材
二次製品

鋼板・二次製品・需要産業

Steel plate

Secondary and tertiary products

Demand industry

海外情報

電炉・スクラップ
技術・環境・エンジ

特殊鋼・ステンレス
鋳鍛鋼

CC出荷3.2%増見込み

4-6月需要低調は継続

全国コイルセンター工業組合(理事長＝小河通治・小河商店社長)によると、4-6月のコイルセンター出荷量は前年同期比3.2%増の336万9000トに増加する見込みだ。ただ、地区別では増加するのは東海と中国・九州の2地区で、前年同期に自動車メーカーの認証不正やリコールなどに伴い減産したことの影響増が押し上げる形となる。「全体としては低調が続いている(同組合)」のが実態で、需給好転の兆しも見られず、1-3月に続き4-6月も厳しい環境となりそうだ。

1-6月は従来、不需要期だったが、昨年あたりから人手不足や資材不足を受け、通年での仕事量が平準化されており、今年も1-3月並みの需要が見込まれる。

東海・中国・九州が回復

4-6月の地区別の出荷量は関東以北が1.2%減の122万8000ト、東海が11.4%増の106万5000ト、関西が1.7%減の81万3000ト、中国・九州が11.1%増の26万3000トとなる見込み。需要は引き続き伸び悩む公算が大きい。

東海と中国・九州は前年同期比では大幅に増えているものの、1-3月比では東海が0.3%減、中国・九州が0.8%減と、いずれもマイナス。関東以北は2.3%増え、関西は0.1%増のほぼ横ばいとなる見込み。全体では1-3月比0.9%増(1.7%増)の回復が鈍い。

自動車向けは依然として完成車メーカーで濃淡があり、東海地区でのトヨタ自動車の生産は堅調に推移する見通し。関東や九州では日産自動車向けが低調。関西ではダイハツ工業の生産台数の回復が鈍い。

建築関連は首都圏の再開発が継続し、需要を下支えしている。4

金属サイディング出荷

西日本比率23%に上昇

日本金属サイディング工業会(会長＝森安弘・アイシー工業社長)は、「GO WES T」を合言葉に西日本に向けた普及活動を進めており、金属サイディングの2023年度出荷量が占める西日本向けの比率が22.8%と、14年度に比べて4.9%上昇したことを公表した。講習会などを通じて、今後も西日本向けの普及を継続する考えだ。

森会長は「西日本では金属サイディングの存在も知らない人もい

関西CC工業会・OSA 2月末在庫29.7万トに減

関西地区 薄板流通動態調査 (単位: トン、%)				
2月末現在	入荷	出荷	在庫	在庫率(力月分)
熱延薄板	41,415	42,570	86,566	2.03
	⊖12.6	⊖5.8	⊖1.3	
冷延薄板	38,820	40,832	80,386	1.97
	⊖6.7	⊖0.3	⊖2.4	
	67,895	67,032	129,704	

パートナーシップ構築宣言

M.T.Cが中小企業賞



表彰式の様子(前列左端が森社長)

取引先と協力関係構築

経済産業省は関係府省庁とともに、サブライチェーン全体での付加価値向上や大企業と中小企業の共存共栄を目指す「パートナーシップ構築宣言」を推進している。同宣言のさらなる拡大やサブライチェーン全体での協力拡大の機運醸成を目的としたシンポジウムを13日に東京都内で開催。同社をはじめとした優良な取り組み事例を表彰した。

受賞企業はそれぞれ取り組みについてプレゼンテーションも実施。主に取引組んでいる施策やパートナーシップ構築に取り組んだきっかけなどを紹介した。

M.T.Cでは、2004年に制定した「よい良い提案ができて良きパートナーとして求められる企業として存続する」という経営理念の下、約20年以上にわたり、ティア2としてさまざまな協力企業と良好な関係を築いてきた。21年にはパ



賞状を受け取る森社長(右)

直近10年では、取引先企業から加工方法や品質などの基準についてさまざまな要望が増加したことから、ティア3の協力企業との業務効率化を図ることに。品質管理においては、仕事のあり方や管理方法の教育・指導を始めたほか、ティア1と共有している必要な文書・フォーマットを提供。記入方法を教育し、ティア1からティア3までの情報供給に注力した。現在は2カ月1回程度訪問し、状況確認を行っているという。

また製品の検品において、ティア3に最新のAI画像カメラを使用した検査を推奨。所持していない企業には貸与することで、時間

輸入材岸壁在庫

2月末、阪

阪和興業の調べによると、2月末の輸入材岸壁在庫は、大阪・東京両地区合計で前月比6000ト(3.8%)別減の15万2000トと

「今春からインドネシア人の技能実習生が2人、仲間に加わる予定だ。すでに頑張っている他実習生やクローバル人材のように、日本語習得も仕事も頑張ってもらいたい」と話すのは、M.T.Cの森久次社長。

▽:同社では採用にメリ



森社長

外国人材 積極的に雇用

ットを感じたことから、2017年から技能実習生を受け入れ。20年からは正社員としてクローバル人材を雇用している。日本人以外を受け入れることに最初は不安もあったが、今のところ良い人材との出会いに恵まれている」と森社長は話す。

▽:実習生の面接は現地ではなくリモート面接で行うという。社内の役員や製造責任者など複数人で面接官を担当しており、それぞ

健康経営優良法人3年連続

M.T.Cはこのほど、健康経営優良法人2025(中小規模法

